

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 2 月 3 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	〒859-6204 長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦 986-38		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 20 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 2 月 17 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構
所在地	長崎県島原市高島町 2 丁目 7217 島原商工会議所 1F
訪問調査日	平成 24 年 1 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

「自分らしく あるがままに」という理念を元に入居者それぞれのこれまでの生活を尊重し、家族、地域の方々、スタッフが協力し合いながら支えあい、安心して暮らせる日々を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

当該ホームは運営推進会議メンバーや幼稚園園児及び老人会との協力関係が結ばれており、交流が活発に行われている。入居者の支援経過記録を「介護日誌」として様式を独自に作成しておられ、24時間の記録対応となっている。この介護日誌には入居者の些細な一言（希望、意向や主訴が表れることがある）が記録されているばかりか、介護計画の見直しに際し、「些細な一言」をカンファレンス（全体会議）において検討課題として取り上げ、入居者の思いや意向に沿えるように取り組まれている。入居時以降における心身の変化を伴った、「自分らしく、あるがままに」に出来るように、まさに、事業所理念が進化しているようである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を職員全員が普段の生活の中でもホーム内でも地域の中でも自然に共有しまた実践している。	「自分らしく、ありのままに」を事業所方針として掲げている。入居前の生活環境を保持したまま共同生活が送れるように、入居前のアセスメントにより職員は情報の共有に努め、平等な支援に心掛けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との継続したつながりもみられ地区行事や老人会行事の参加では利用者と地域の方との自然な会話もみられる。	入居者が老人会に加入し、地域行事に参加している。幼稚園の運動会、夏祭りに入居者を伴い参加したり、幼稚園児が事業所で「お茶会」を開き御点前を披露する等、交流が図られている。また、地域貢献として認知症講習会を開催して地域の方に喜ばれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の訪問の時や運営会議等の委員さんの相談があるときは、相談に乗り支援の方法などをお話ししている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し毎回活動報告、入居者の動静を報告し意見をいただいている。地域の情報や事業所として役割を再認識するなどサービスの向上に反映している。	運営推進会議において、地域住民の認知行動が議題に取り上げられたり、地区代表から市制や包括センターの質問へ市や包括センター職員が答えている。また、事業所からもボランティア要請を行うなど活発な意見交換が行われている。	運営推進会議が活発な意見交換の場となっているが、職員への報告や周知が十分でない。職員が参加する機会を設け、運営推進会議における話題や情報の共有を図ることが望ましい。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、事業所の情報や、実情を伝えている。	出先機関である行政センターに事業所を直接統括する担当部署がなく、協力関係の醸成に苦慮している。本所まで出向き協力関係の構築に努め、協力・信頼関係が保てている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束和考える月間を設け、再度スタッフ個々の認識を高めている。</p>	<p>身体拘束は行われておらず、スピーチロックが多少あるが、その後の対応を迅速に行うように心掛けている。また、定期的な研修や意識付けを目的とした「身体拘束をしない強調月間」運動を実践している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束和考える月間を設け、再度スタッフ個々の認識を高めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>市協会の研修会に参加し、もしもの時に活用できるようにしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は事業所契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し理解をいただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者へは日々の生活の中でさり気なく声をかけ思いを引き出すように働きかけている。ご家族へは面会の際に時間を頂き意見や要望を尋ねるようにしている。また季節ごとの便りにもその旨を記載して意見を募っており運営に反映している。</p>	<p>入居者から、日常生活の中で出た些細な言葉を介護日誌に書き留める取り組みを行っている。この些細な言葉の積み重ねをカンファレンスで検討し、支援に活かしている。また、家族からは面会時等や介護計画説明の折、担当者が聴取している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のカンファレンスの中で全職員に意見を求め協議し運営に反映させている。又日々の業務の中でも意見を出し合い反映させている。</p>	<p>職員からの意見提案で休憩時間の取得方法が改善されたり、意見など自由に話せる開かれた事業所となっている。また、管理者も昨年からは試行的にアンケート方式で意見や提言を求めるなど積極的な姿勢が窺える。</p>	

12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務時間等負担にならないように、有給を取りやすい環境を作っている。給与においても、資格手当等を設け、やりがいが出るよう努力している。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ個々が意識を持てるよう、所内研修、外部研修に参加している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市協会に加入し、交流会や研修会に参加しスタッフ間のネットワークづくりをしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から担当者がご本人と面会し顔を合わせる機会をもち少しずつ話が出来ると雰囲気をつくり信頼関係を築く努力をしている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居までに担当者と話し合いを持ち具体的な困り事、要望等を話し合い入居後も家族からの話を聴く機会をもっている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときの内容により状態に応じた他のサービス利用の説明を行い選択肢を提供し対応している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日頃より話す場を持ち、入居者、スタッフではなく家族といえるような関係を築くようにしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者と離れがちな家族もいるが、家族も巻き込みながら支援している</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>住み慣れた場所、というのを大切にしながら、馴染みの人が入りやすい環境を作っている。</p>	<p>入居者は地域の方が多く、幼馴染の方が老人会で活動されているため、交流支援の取組を行っている。また、面会などでも自由に談笑できるような環境づくりを行っている。</p>	<p>老人会が年1回と少ない状況にある。入居者ごとの幼馴染を名簿化する等の方法で、入居者の方が幼馴染を訪問する、といった積極的な支援の取組に期待したい。</p>
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の性格や相性を考慮し、見守りや、支援をしている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族の要望があるときは、入院中の支援などを行っている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のケアの中で、本人との会話や表情などから、思いや希望、感じていることなどを把握し、自分らしい生活が送れるように、本人の気持ちに沿った対応ができるようにしている。</p>	<p>観察して得た情報や入居者が漏らした一言等を介護日誌に細かく記録している。また、介護計画の見直し時に意向や主訴の変化を把握するためアセスメントを作成している。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や、家族から情報収集を行い、これまでの生活歴などを把握し、知り得た情報を参考にし、現在の生活に反映できるように努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>それぞれの日々の生活の中で、心身状態にあった環境で、有する力を発揮できる場を提供し本人の現状を把握できるようにしている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族に意見、要望をうかがう機会を持ち、また日常生活のケアで担当者や他スタッフが意見やアイデアを出し合い介護計画に反映できるように取り組んでいる。</p>	<p>担当者会議で計画書の評価や検討議題を定め、打ち合わせを行っている。担当者会議の検討内容をカンファレンスに諮り、介護計画書を作成している。この工程を経ることで全職員が入居者全員の介護計画に携わることになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>実践と結果、その時の本人の様子や言葉を記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の現状の変化や、ニーズに対応できるよう、スタッフ間で意見を出し合い、その現状に合ったサービスが提供できるよう柔軟に対応している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>老人会や地区行事にできるだけ参加し、地域との交流を図りながら気軽に声を掛け合える関係づくりをしており安全で楽しく生活できるよう支援している。</p>		

30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を定期的に受診し、又、通院困難な方には月に1～2回の受診をお願いし、適切な医療が受けられるよう対応している。	協力医院の往診が毎月2回、かかりつけ医や専門医の受診も積極的に支援している。また、通院が無理な入居者には専門医の往診を依頼する等の取組をしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で日頃の状態を把握し異常を早期発見できるよう心がけ、必要な情報を看護職に相談し、連携して適切な対応ができるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ医療機関へ出向き、病院関係者との情報交換や相談をして、利用者が安心して治療に専念し、早期に退院できるよう、医療機関とのよい関係づくりに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の現状を定期通院や往診された際に主治医に報告、相談を行い必要に応じて家族と話をする機会を作っている。また事業所としてできることとできないことを見極め、医療機関や他事業所と連携して支援ができるよう取り組んでいる。	事業所として、看取り介護体制作りのため、職員の准看護師資格取得の促しを行うなど、積極的な取組と協力病院との連携等について計画されている。また、職員を介護のための医療基礎研修等に積極的に参加させておられる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、利用者ごとの急病時活用ファイルや勤務時間帯（夜勤、日勤）での緊急対応マニュアルを作成している。また緊急時に備え、定期的に訓練を実施している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時に備えた避難訓練を行っている。また避難場所の確認や地域との協力関係が築けるよう心掛けている。	春、秋の避難訓練に合わせ非常持ち出し品の見直しと簡易持ち出し品（入居者の連絡先、既往歴や服薬の種類と食料品の袋詰め）の工夫がされている。	避難先が公民館と市役所から指定されているが、水害に適應していないため、早急に市役所と避難先の選定や避難経路の確立等々を策定されることが望まれる。また、食料品の備蓄についても量的再考が望ましい。

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりを尊重し、それぞれの状態、状況にあった言葉かけができるよう職員それぞれが心がけている。	入居者との信頼関係ができているため、方言での声掛けや話を行っている。トイレ誘導等は耳元で声掛けがされるなどの配慮もされている。なお、職員も入居者の尊厳に配慮した接し方を実践している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日地上生活の中で本人が自由に自分の意思を伝えることができるように働きかけている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調に合わせ、その時の思いを尊重し、自分のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、行きつけの理容美容室へ通い、ご本人に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんど毎食準備から食事の後片づけまで職員と利用者が一緒に台所に入り、その方々の好みや力が生かせるよう支援している。	毎日のメニューが決まっておらず、その都度、入居者の希望を聞き、買物に行くことから食事の準備が始まる。毎週1回歯科衛生士による口腔ケアを実施していて、入居者の方に美味しく食べて頂く取り組みがなされている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた摂取量や食事形態、嗜好などを考慮し、また、食事の環境や姿勢を整える事にも考慮して取り組んでいる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行っている。自立されている方でも、見守りや、洗浄剤を使用して義歯の手入れができるよう支援している。また定期的に歯科衛生士による口腔ケア専門的な指導を受けている。	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを早期に把握し、その状況に応じて誘導声掛けを行い、トイレで排泄ができるよう支援している。	オムツの方3名にも昼間はリハビリパンツで過ごしていただくように、トイレ誘導を実践している。入居者の特性を把握し、時間による誘導、挙動による誘導を心掛け、オムツからリハビリパンツに改善された方もいる。

44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々食事や水分摂取量を考慮し、またご利用者それぞれに適したうんどうができるよう声掛け参加を促している。薬剤が必要な方は主治医に相談し、対応している。トイレ使用後には確認を行い記録している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節に合わせて入浴を支援している。利用者の希望やタイミングに合わせて、声掛けを促し入浴を楽しんでいただけるよう支援している。また定期的に温泉も楽しまれている。	冬の入浴を嫌がる入居者のため、週1回、平戸市から温泉を購入のうえ、事業所まで搬入して入浴を楽しんでいただくよう工夫している。入浴は基本的に入居者本意で決定している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や体操など活動する時間を持ち夜間安眠できるように一人一人に合った対応を行っている。できる限り睡眠導入剤に頼らないようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を通院記録とともにファイルに添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時は変更内容の記録と申し送りを確実にを行い、状態の変化の確認に努めている		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人一人の生活歴や楽しみなどを尊重し毎日を楽しく過ごせるよう心がけ支援している。できる範囲で役割を持ちメリハリのある生活が送れるようまた、時には気分転換を図り、充実した日々を過ごせるよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>できる限り本人の希望に沿って外出できるよう努めているが、すぐに対応できないときは事情を説明し納得が得られるよう努めている。</p>	<p>神社の奉納祭、運動会や夏祭りなど地域行事には積極的に外出するように支援している。買い物や散歩は毎日行っている。また、家族が障がい者のため入居者を自宅に連れて行き会ってもらう支援も行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理支払いができる方は、自分で財布を持っていたり、職員と買い物に出かけて自分で考え支払いができるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙やハガキを書かれる方は必要なものを準備している。また、電話を希望されるときは、自分で会話できるように支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が居心地良く過ごせるよう、季節の花を飾ったり、作成された手芸品を飾り生活感や季節感をとりいれている。また快適な生活が送れるよう自然な空間づくりに努めている。</p>	<p>窓からの眺めは、港・船、その先に海が広がり、ゆっくりした時間の経過が感じられる。季節感を出すイベントごとの飾り付けや入居者の手作り作品も展示されている。</p>	<p>居室から共用スペースまでの廊下と共用スペースが肌寒く感じられた。暖房器の設定温度は最大となっていたため、共用空間全体と暖房器具の暖房能力の差異について検討されることが望ましい。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人がその時の気分に合わせて過ごせる好みの場所や、交流が図られるような居場所が作れるよう、椅子の種類や配置を考慮したり、ソファを用意し工夫している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族にも説明し、本人が使い慣れた馴染みのものをできるだけ用意していただき、安心して生活できるように対応している。	居室には畳敷きのスペースが設けてあり、ペットを出てソファでくつろぐのもよし、畳に炬燵で足を延ばすのもいい。居室に持ち込む調度品は入居者の自由となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すりの設置や、靴を履くためのベンチの設置など、ご利用者が安全で、また、持てる力を発揮し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない